
インフィニット・ストラトス～ I Sを動かせるもう一人の男は一夏の親友

怒レイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インフィニット・ストラトス〜ISを動かせるもう一人の男はー
夏の親友

【Nコード】

N7729Y

【作者名】

怒レイン

【あらすじ】

もう一つ作ってみた。

プロローグとプロフィール(前書き)

プロローグと主人公のプロフィール

ブローグとプロフィール

「何故だ？何故こうなった？」

確か今日は…

回想

「弾、おはよう」

弾「おう！おはよう蓮香」

悪友の弾と一緒に登校して、一夏はどうしてるかなと話たり、話が脱線したりして紫藍学園について、クラスに言った後、担任から今日はISの関係者が来ると聞いて

「男子は無理かも知れないけど、一応触ってみて」

と言われて、俺の番になった時にISが起動したそしたら、

「君！少し待ってて！！木原先生に連絡するから」

と言って、千冬さんに連絡していた。

「木原先生が連れて来いって言ってたから連れていくね？」

と言われ拉致られた。……幸いクズ（両親）共は他界しており、一人暮らしたかったので、迷惑をかける人は居ない。

蓮香「俺にこの学園に通えと？」

千冬「ああ、そうだ」

蓮香「了解しました。」

千冬「随分と決めるのが早いな」

蓮香「モルモットは嫌なので」

絶対に断ることが出来ない状況に居ることくらい分かる。

千冬「分かった。来週の頭に登校できる用にしよう」

蓮香「お願いします」

そして、俺のIS学園行きが決まった。

此処で、プロローグを終わりにします。
次は簡単なオリ主人公の紹介です。

プロフィール

『名前』

かんざき・れんか
・神崎蓮香

『性別』

・男

『年齢・体重・身長』

・15歳・59?・172?

『容姿・性格』

・白銀の髪に赤い目をしている。顔は男にしては可愛い系

・性格は自由気ままで人の話を聞かない。興味が無い人には東並に冷たい。

『好きなもの』

・一夏と弾（親友として）・東と千冬（興味対象）

『嫌いなもの』

・特に無い

一話

あれから一週間が経ち、千冬さんから制服を貰い今日はIS学園初登校です

千冬「来たか」

蓮香「はい。木原先生」

千冬「お前のクラスは一年一組だ。行くぞ」

蓮香「はい」

それから千冬さんと一年一組に向った。

……………そして

麻耶「今日から、新しくこのクラスに入る生徒を紹介します」

千冬「蓮香入れ」

小声で千冬さんが呼んだので教室に入ることに

蓮香「え〜と、元紫藍学園の生徒で、今日からこのクラスでお世話になる神崎蓮香です。至らない部分もありますがよろしくお願います」

「だ、男子？」「可愛い系の？」「二人目の男子？」

……………

「「「「「やったあああああ！」「」「」

！？ビックリしたあゝ。

千冬「静かにしろ。神崎は布仏の隣だ」

周りからいいなあゝという声が聞こえた

蓮香「よろしくな。布仏さん」

本音「よろしくねゝ。あと、名字じゃなくていいよゝ」

それから授業が始まったが

蓮香「さっぱり分かん。」

本音「わかんないのゝ？れんくゝん」

蓮香「参考書を買ったのが昨日の8時くらいだからな」

布仏さんと喋っていると

麻耶「じゃあここを神崎君答えてください」

山田先生に当てられた

蓮香「先生、参考書を買ったのが夜の8時なので覚えきれませんでした。」

麻耶「そうなんですか？なら布仏さん答えてください」

本音「は〜い」

しばらくして授業が終わり、布仏さんに名字じゃなくていいと言われたので本音と呼んだら慌てていた。その後は一夏の机に行った

蓮香「久しぶりだな一夏」

一夏「おうつ！よかったよ、俺一人だとかなり辛くてな〜」

蓮香「ああ、分かる。時間中に視線を凄く感じるからな」

本当に時間中は参った。隣が本音じゃ無かったら参ってた。(和みオーラを出しているから)

?「一夏さんの知り合いですか？」

?2「……………」

一夏と話している時に女が二人来た

一夏「ああ。そつだぞセシリア」

蓮香「どちらかと言えば腐れ縁だかな。……………！ほ、箒か？」

セシリア「あら、箒さんと知り合いですの？」

箒「私と蓮香とは昔によく遊んだ仲だ」

一夏「そついえ」「一夏〜!!」「鈴」

蓮香「鈴も居たのか」

鈴「蓮香！久しぶりね」

蓮香「ああ」

まさか知り合いが2人（一夏を除いて）も居るなんてな

蓮香「ところで一夏？何か言っていなかったか？」

一夏「ああ、弾はどうしてた？」

蓮香「うらやましって血の涙を流してた」

一夏「はは、弾らしいな」

本当だよ。IS動かした時にうらやましがつってたからな

キンコーン、カーンコーン

千冬「チャイムがなったから早く外に行け。木原、神崎の面倒を見てくれ」

一夏「はい。行くぞ蓮香。早く行かないと千冬姉の出席簿アタックが来るからな」

蓮香「分かった」そして授業が終わり放課後

麻耶「神崎君は1025室なので間違えないでください」

蓮香「へい」

山田先生に寮の部屋の鍵を貰い部屋に向かった

蓮香「へえ〜こつゆう部屋か？」

部屋に入ったので荷物を下ろしたてシャワーを浴びる事にした

ガチャ

一夏「ふう〜つかれ〜た？」

蓮香「ん？同じ部屋か一夏？」

一夏が戻って来た時にはシャワーを浴び終えてた

一夏「なっ／／／／！？」

蓮香「どうした一夏？」

作者『説明しわすれましたが、蓮香の髪は背中まであります。』

一夏サイド

篤達との訓練を終えて部屋に戻ったら蓮香が居た。いや、居るのはいいのだが、髪が濡れてて頬が赤いので女に見えてしまう

蓮香「どうした一夏？」

一夏「（蓮香は男、蓮香は男、蓮香は男）いや、何でもない。」

蓮香「そうか？それなら飯を食いに行こうぜ」

一夏「ああ、シャワーで汗を流すから少し待っててくれ」

蓮香「分かった」

危なかった。あと少しで、理性が切れそうだった

一夏サイドOut

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7729y/>

インフィニット・ストラトス～ISを動かせるもう一人の男は一夏の親友

2011年11月24日09時59分発行